

街を行く

第160回 香港（その2） Hong Kong

やはり、ダイナミックです

香港は、九龍（クーロン）と香港の2つの島に分かれ、連絡トンネルを使えば地下鉄や車で簡単に移動でき、風情を求めればフェリーで渡ることもできます。地下鉄では、九龍南端の繁華街「チムサアチョイ」から香港島の「アドミラルティ」をほんの5分、さらに1駅進めば

金融や行政の中心地セントラル（中環）に到着です。

このセントラルこそがアジアの金融ハブを担ってきたエリアです。

日本と違い建築制限がうるさくないため、周囲のビル建物はみな超高層かつ個性的なデザイン。HSBC（香港上海銀行）や中国銀行のヘッドクォーターを囲むように、オーチャードバンクやリッポアのビルが立ち並ぶ様はじつにユニークで、一目で都市のダイナミックさが伝わり、日本がハブになれないのは言語の問題だけではないことが理解できます。

小生はラッキーにも「チャイナクラブ（中国会）」のディナーを取ることができ、バルコニーからその圧巻の眺めを楽しみました。チャイナクラブは香港のセレブが集う会員制レストランの老舗。レトロな店内でジャズを聴きながらの食事は格別でした。そこで面白かったのは昔ながらの酢豚を注文したら、ふんだんにパイナップルが入っていたこと。邪道と言われがちパイナップル入りです



ヴィクトリア・ピーク（香港島）からの眺めと、街で見かけた二胡をひくおじさん



が、これこそ本場なのだと嬉しく思いましたよ。

有名な観光地としてはヴィクトリア・ピークがあり、ほとんどの観光客はその頂から香港島の街並みと湾を隔てた九龍を眺めます。展望台の周囲には多くの土産店や飲食店が軒を連ね、その中にあるマダムタツソの蠟人形館を覗いてみました。米国西海岸では有名なハリウッドスターやグラミー賞を取った歌手の人形が多いのですが、さすがに中国ではブルース・リーやジャッキー・チェンなどのカンフースターが看板でした。小生は習近平夫妻（の蠟人形）と一緒に写真を撮りました（正直なところ戸惑ってしまいました）。

もう一つの有名な観光地はミッドレベル・エスカレーターでしょうね。セントラルの街中から3つの動く歩道や20基のエスカレーター（総長800m）で坂道の街を通り抜けます。その両サイドは“SOHO”と呼ばれ、お洒落な店が軒を連ねています。NYのそれとはかなり趣が違いますが、確かに欧米的。

また、坂道の途中には孫文を称える孫中山記念館があり、やはり今も中国の“父”は独立を勝ち取った意味で孫文なのですね。

たくさんの観光地を巡り楽しみながらも考えていたのは、「この街はこれからどの様になっていくのか？」でした。中国の大都市として、北京や上海と趣の異なる国際都市という役割は不動ながら、中国化は今以上に進むのは致し方ないでしょう。どうにせよ、この先も非常に興味のある街に違いありません。

南 一 弘



1982年大学卒業後、三井不動産販売に入社。ローンスター・ジャパン・アクイジションズを経て、2001年エートス・ジャパン・エルエルシーを設立。同代表に就任。2005年4月MID都市開発（旧松下興産）の代表取締役に就任。2006年ジャパン・アセット・アドバイザーズを設立。同代表取締役に就任。